

旧岐阜県庁舎と新しいぎふ町を考え、議論する特別な5日間

目覚めよ！ 司町旧県庁舎 展

2025 10/19(日) ~ 10/23(木)

みんなの森 ぎふメディアコスモス「ドキドキテラス」

入場無料

岐阜県岐阜市司町40-5

主催：司町旧県庁舎保存活用協議会

「旧県庁舎保存活用と新しいぎふ町づくり」



令和7年度 岐阜市市民活動支援事業 採択事業

INFORMATION

旧県庁舎内部、旧岐阜町の町並み写真展・学術セミナー・街歩き etc.

『岐阜の宝物』を感じるイベントが満載!!

会場：みんなの森 ぎふメディアコスモス1F「ドキドキテラス」

1 10/19 (日)

- 14:00 キックオフ宣言
「特別な5日間が始まる」
- 14:20 旧県庁舎内部、旧岐阜町町並み写真展 オープン
サポート カウンター オープン
- 15:00 プロローグ・セミナー
＜テーマ＞
学生たちと考える司町旧県庁舎利活用
「旧県庁舎保存及び旧岐阜町を未来にどう繋げるか」
[スピーカー]
清水 隆宏 氏 (愛知工業大学 准教授)
安田 匠 氏 (愛知工業大学大学院生)
未来を託す若者たち
- 16:30
- 17:00 クロース

2 10/20 (月)

- 10:00 パネル展 (終日開催)
- 13:30 セミナー
＜テーマ＞
「ぎふ町・司町の未来を考える」
～未来を見据えたまちづくり～
[スピーカー]
富樫 幸一 氏 (岐阜大学 名誉教授)
吉成 信夫 氏 (元 ぎふメディアコスモス総合プロデューサー)
松本 公 氏 (京町自治会連合会 会長)
松枝 朋子 氏 (株式会社 岐阜まち家守)
- 15:30
- 17:00 クロース

当日受付
12:30～
(先着30名)

3 10/21 (火)

- 10:00 パネル展 (終日開催)
- 10:00 司ウォーキング「岐阜の歴史を辿る街歩き」
[街歩きガイド]
富樫 幸一 氏 (前掲)
「鵜飼乗船待合所～川原町～井ノ口～伊奈波界限
～旧県庁・メディアコスモス」：所要時間:約2時間
- 12:30 ※詳細は参加申込欄
- 17:00 クロース

4 10/22 (水)

- 10:00 パネル展 (終日開催)
- 13:30 セミナー
＜テーマ＞
「秘められた魅力を探る…化石で飾るエントランスホール
様々な六角形デザイン ステンドグラス マントルピース…」
[スピーカー]
古川 秀昭 氏 (前 岐阜県美術館館長)
野村 幸弘 氏 (岐阜大学教育学部教授、イタリア美術史、現代芸術研究)
高木 洋一 氏 (元 金生山化石館館長)
矢橋 修太郎 氏 (矢橋大理石株式会社 社長)
- 15:30
- 17:00 クロース

当日受付
12:30～
(先着30名)

5 10/23 (木)

- 10:00 パネル展 (終日開催)
- 13:30 エピローグ・セミナー
＜テーマ＞
「旧県庁舎保存及び旧岐阜町を未来にどう繋げるか」
[スピーカー]
富樫 幸一 氏 (前掲)
清水 隆宏 氏 (前掲)
柳田 良造 氏 (岐阜市立女子短期大学名誉教授) ※ZOOM対談
- 15:00
- 16:00 エンディング宣言

司ウォーキング参加者募集

旧県庁舎を中心に近代建築や古民家などを南と北からウォーキング。
岐阜市街の変遷から現在のまちづくりまで、歩いて辿ります。

■第1回 2025年10月12日(日)開催〈雨天決行〉

「中山道加納宿まちづくり交流センター～繊維問屋町～
玉宮通り～徹明町～美殿町～司町旧県庁・メディアコスモス」

時間 | 13:30～16:00

集合 | 13:00 (中山道加納宿まちづくり交流センター)

■第2回 2025年10月21日(火)開催〈雨天決行〉

「鵜飼乗船待合所～川原町～井ノ口～伊奈波界限
伊奈波界限～旧県庁・メディアコスモス」

時間 | 10:00～12:00

集合 | 9:30 (鵜飼乗船待合所)

参加申込 (各回先着20名)【参加無料】

✉ ktogashihonjo@gmail.com (担当:富樫)

第1回：10月8日締め切り / 第2回：10月17日締め切り

※お名前、住所、年齢、携帯番号などをお知らせください。
※軽装・シューズなどウォーキングができる服装でご参加下さい。
※体力に自信のある方に限ります。※雨天決行(警報発令時中止)

お問い合わせ

Mail:toki1496@ccn.aitai.ne.jp

司町旧県庁舎保存活用協議会 事務局：石黒 時紀

- 全てのプログラムの参加費は無料です。
- プログラム内容は予告なく変更・中止する場合があります。
- 申し込みが多い場合は参加をお断りする場合があります。



前 岐阜県美術館館長
画家
OKBギャラリーおおがき館長
司町旧県庁舎保存活用協議会 会長

古川 秀昭

「司町旧県庁舎保存活用」を目指す展示会の第3回目を開催します。これまでと大きく違うことは、江崎知事の誕生により「司町旧県庁舎」に対する眼差しが、保存活用の重要さに向けられたことです。先ずサウンディング市場調査参加者に、県管財課の下で一定期間庁舎内の民間の立ち入りが実現しました。

しかしこの9月16日県の公示ではサウンディング市場調査の結果を踏まえて、11月16日までに「旧県庁舎の利活用」を希望する民間事業主のプロポーザル参加申し込みを受け付けるといいます。基本条件に「用地は無償貸与、建物は無償譲渡」となっています。そして県が組織する評価会議により年内に優先事業者を公表する

今こそ目覚める時 旧県庁舎のある司町一番地

という公示です。

このように急変した県の主旨に私たちは一瞬戸惑いながら、これまで調査・研究を重ねてきた「旧県庁舎」への強い「保存」への志を新たに、丁度旧県庁舎101年を迎える今日、展示会を開催します。

私たちはこれまで旧県庁舎の現状から耐震、免震の手法や歴史文化的視点からの保存利活用の展望を様々なセミナーとウォーキングなどで広く県民市民と共に探ってきました。

どうかみなさん今こそ「旧県庁舎」を見つめ、新しい岐阜県の文化と未来の礎となる「司町一番地」に共に目覚めようではありませんか。

新しい風をおこそう！ 新しい“ぎふ町”を作ろう！ 岐阜の文化を未来につなごう！



愛知工業大学 工学部 建築学科 准教授
司町旧県庁舎保存活用協議会 副会長

清水 隆宏

“いま”を生きる私たちの責務とは

ローマにあるコロッセオは、古代ローマの遺構として大切に維持管理され、昔も今も世界中の人々を魅了しています。奈良県斑鳩町にある法隆寺の金堂や五重塔は世界最古の木造建築として、我々だけでなく世界共通の文化財として保存、公開されています。

ここまで古い文化財でなくても、各時代の“いま”を生きる人々は、その次の“いま”を生きる人々へ大切な歴史・文化を受け継ぐ責務があります。絵画や彫刻、日本刀や戦国武将の書簡、地域の祭礼や珍しい記念物、建築もそういった継承すべき歴史・文化の1つであることは冒頭の例からも明らかであり、各時代、各地域を代表する建築は重要な文化財です。

他の文化財とは異なり、建築は大きくて常に屋外にあり、収蔵庫での保管はできません。また、現時点での技術では完璧な修復ができないこともあります。しかし、次世代へ引き継いでおけば、新しい技術の登場によって適切な手当てが可能となります。困難は多いですが、歴史的建造物の利活用は、その空間に足を踏み入れるだけで瞬時に竣工当時の雰囲気、その後の建物や街の記憶、歴史の積み重ねを感じ取ることができる、貴重な歴史文化体験の場となります。

県の発展を伝える地域社会史的にはもちろん、現存する都道府県庁舎の中で最も古い鉄筋コンクリート構造の建物として建設技術史的にも、旧岐阜県庁舎は重要です。大切な「岐阜の宝物」を未来の人々へ受け渡すためのスタートを切る時が、“いま”来ています。



岐阜大学 地域科学部 名誉教授
司町旧県庁舎保存活用協議会 副会長

富樫 幸一

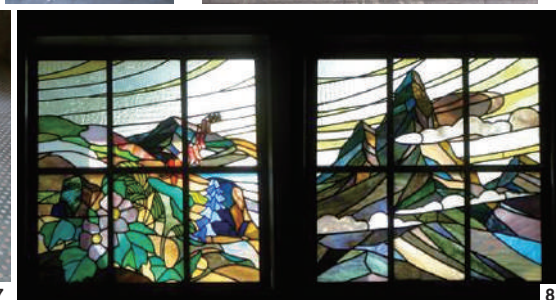
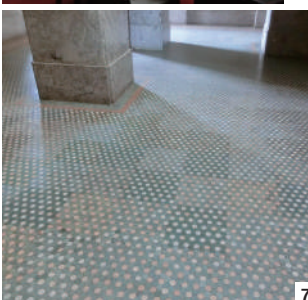
旧県庁舎の新しい100年に向けて

大正、日本の経済や社会が飛躍的な発展を遂げた頃、全国でも洋風建築の県庁舎が次々に建てられました。旧岐阜県庁舎は其中でも、地元の赤坂などの大理石や常滑産のタイルの製造や技術をふんだんに用いた建物です。

戦前の県庁は内務省の下にあり、長良川の治水工事や小作争議対策で全国にも先駆けた施策が行われていました。1965年に県庁が移転した後も、岐阜総合庁舎として県や民間の手で使われており、われわれも、ぎふまちづくりセンターと一緒に活動し、岐阜三十六景の一つにも選ばれました。こうした岐阜の歴史を物語るシンボルとなる場所であり、景観です。

2013年に閉庁された時も、イカス旧県庁舎の会として、イベントや活用提案も行いました。今回、県の意見聴取でも保存活用協議会として提案し、メディアコスモスとともに、県と市、市民、県民の協力で、これからまた100年のまちづくりの場として、甦らせていきましょう。

二度と手に入らない文化遺産、モダニズムの象徴、岐阜の宝物。



矢橋賢吉氏(美濃赤坂生まれ)によって設計され、現存する鉄筋コンクリート造り県庁舎として、国会議事堂、旧石川県庁舎(しいのき迎賓館)同様、日本最初期の建物として、大きな建築史的意味を持っています。

重厚な外観・内観、平面構成まで、当時のモダニズム表現がほぼ残され、圧巻の“シカマイア”(2億5000万年前の化石)を施した玄関ホールと大階段等、岐阜のレガシーとして、大きな文化・歴史的価値を有しています。

加速する技術文明の中、インターネット・テクノロジーが私達の生活、思想すべてを変えてしまいそうな経済合理・効率優先の時代にあって、先人達が残してくれた大いなる“文化遺産”を、100年未来へつなげる手立てが、今求められています。

「市・県民みんなの力で残そう、未来へつなごう」。
司町旧県庁舎は、歴史を標榜する岐阜の大いなる宝物です。

- 1.階段ホールトップライト 2.幾何学漆喰文様 3.玄関ホール吹き抜け
4.旧正庁 5.大理石のマントルピース 6.シカマイア(化石)
7.モザイクタイル 8.ステンドグラス